

結果の概要

1 全国の概要

(1) 総数

- ・ 平成17年国勢調査による10月1日現在の我が国の総人口は、127,767,994人で、前回調査の12年に比べ、842,151人、0.7%増加した。人口増加率は、昭和55年以降低下を続け、この5年間は戦後最低の人口増加率となっている。
- ・ 我が国の人口は、世界の人口65.2億人の2.0%を占め、中国(13.1億人)、インド(11.34億人)、アメリカ合衆国(3.0億人)、インドネシア(2.3億人)、ブラジル(1.9億人)、パキスタン(1.6億人)、バングラデシュ(1.5億人)、ロシア(1.4億人)、ナイジェリア(1.4億人)に次いで10番目となっている。

(2) 都道府県別人口

- ・ 全国47都道府県の人口は、300万人以上は10都道府県、200万人台が10府県、100万人台が20県、100万人未満が7県となっている。
- ・ 人口増加率は、東京都が4.2%と最も高く、以下、神奈川県3.6%、沖縄県3.3%、愛知県3.0%、滋賀県2.8%と続いており、15都府県で人口が増加した。

(3) 男女別人口

男女別人口では、男性62,348,977人、女性65,419,017人で、女性が3,070,040人多く、人口性比(女性100人に対する男性の数)は、95.3となっており、平成12年に比べ0.5ポイント低下している。

(4) 年齢別人口

- ・ 年齢別人口では、年少人口(15歳未満人口)は、17,521,234人(総人口の13.7%)、生産年齢人口(15歳以上65歳未満人口)は84,092,414人(同65.8%)、老年人口(65歳以上人口)は25,672,005人(同20.1%)となっている。
- ・ 老年人口は、平成12年に比べ3,666,853人(16.7%)増加し、総人口に占める割合も前回の17.3%から2.8ポイント上昇しており、高齢化が更に進行している。
- ・ 年少人口は、平成12年に比べ951,265人(5.1%)減少し、総人口に占める割合も前回の12.8%から0.9ポイント低下し、調査開始以来最も低くなっている。
- ・ 生産年齢人口は、平成12年に比べ2,127,217人(2.5%)減少し、総人口に占める割合も前回の67.9%から2.1ポイント低下している。
- ・ 総人口に占める老年人口の割合を都道府県別にみると島根県が27.1%と最も高く、沖縄県が16.1%で最も低くなっている。平成12年に比べるとすべての都道府県で上昇しており、全国的に高齢化が進行している。
- ・ 総人口に占める年少人口の割合は、平成12年に比べすべての都道府県で低下し、その結果、沖縄を除く46都道府県で老年人口が年少人口を上回った。

2 京都府の概要

(1) 総数

平成17年10月1日現在の京都府の人口は、2,647,660人で、平成12年に比べ3,269人(0.1%)増加し、全国人口の2.1%を占め、全国47都道府県中13位となっている。

(2) 市町村別人口

京都府内13市24町1村のうち、前回に比べ増加したのは6市4町、減少したのは7市21町村となっている。

人口増加は、精華町が7,879人で最も多く、以下木津町5,446人、京田辺市4,431人、向日市1,616人、八幡市570人となっている。増加率でも、精華町が29.9%と最も高く、以下木津町16.2%、京田辺市7.4%、向日市3.0%となっている。

一方、減少した市町村は、京丹後市が2,855人で最も多く、以下城陽市2,710人、舞鶴市2,317人、宮津市1,764人、綾部市1,126人となっている。

減少率では、伊根町12.7%、笠置町8.8%、夜久野町8.5%、和知町8.4%、和東町8.4%となっている。

(3) 男女別人口

男女別人口では、男性1,272,993人、女性1,374,667人で、女性が101,674人多く、人口性比(女性100人に対する男性の数)は92.6となっており、平成12年の93.6に比べ、1.0ポイント低下している。

(4) 年齢別人口

年齢別人口では、年少人口は、345,071人(総人口の13.0%、前回13.6%)、生産年齢人口は1,755,447人(同66.3%、前回68.5%)、老年人口は530,350人(同20.0%、前回17.4%)となっている。

前回調査と比べると、年少人口は、15,460人(4.3%)減少、生産年齢人口は54,786人(3.0%)減少しているのに対し、老年人口は、71,086人(15.5%)の増加となった。この結果、年齢3区分割合は、前回調査に比べて年少人口が0.6ポイント、生産年齢人口が、2.2ポイント低下する一方で、老年人口が2.6ポイント上昇している。

3 綾部市の概要

(1) 総数

平成17年10月1日現在の綾部市の人口は、37,755人で、平成12年と比較すると1,126人(2.9%)減少し、昭和25年の市政施行時の調査から減少を続けている。

(2) 人口集中地区(DID)

人口集中地区面積は3.6km²、区域内人口は13,439人で、平成12年と比較すると、面積は5.9%(前回3.4km²)、人口では1.0%(前回13,303人)増加した。

(3) 男女別人口

男女別人口では、男性18,031人で、前回調査と比較すると517人(2.8%)の減少、女性19,724人で、609人(3.0%)の減少となり、女性が1,693人多く、人口性比(女性100人に対する男性の数)は91.4で前回調査と比較すると0.2上昇している。

なお、人口性比は、全国の95.3、京都府の92.6と比較すると女性の割合が多くなっている。

(4) 年齢別人口

年齢別人口では、年少人口が4,918人で総人口に占める割合は13.0%(前回13.8%)、生産年齢人口が21,230人で56.2%(前回58.0%)、老年人口が11,492人で30.4%(前回28.2%)となっている。

前回調査と比較すると、65歳未満の人口が1,772人減少し、老年人口は536人(4.9%)増加し、老年人口の割合は前回調査から2.2ポイントの増となった。

なお、綾部市の老年人口の割合は、京都府内の市町村では12番目、市では2番目に高くなっている。

(5) 地区別人口

今回調査で人口が増加したのは、吉美(726人)、中筋(272人)の2地区で、平成12年調査時と同じく、吉美地区は桜が丘団地の分譲、中筋地区は土地区画整理事業等による市街化等が主な要因と考えられる。

(6) 配偶関係

15歳以上人口を配偶関係別にみると、男性では、未婚者が3,731人(15歳以上の男性人口に占める割合24.2%)、有配偶者が10,492人(同68.2%)、死別者591人(同3.8%)、離別者451人(同2.9%)となっている。

一方女性では、未婚者が2,577人(15歳以上の女性人口に占める

割合14.9%)、有配偶者が10,448人(同60.3%)、死別者3,424人(同19.8%)、離別者753人(同4.3%)となっており、前回に比べ、男女とも離別者が増加している。

(7) 世帯数

世帯総数は、14,286世帯で、前回と比較すると402世帯(2.9%)増加している。

うち一般世帯数は14,161世帯、世帯人員は36,938人で、1世帯当たり人員は、2.61人となっている。前回調査から世帯数は、296世帯(2.1%)増加したのに対し、世帯人員は1,359人(3.5%)減少したため世帯規模が2.76人から0.15人縮小した。

(8) 世帯の類型

核家族世帯は8,436世帯(一般世帯の59.6%)で、前回調査の8,108世帯(同58.5%)から328世帯、1.1ポイント増加している。

さらに、65歳以上の親族のいる世帯は7,417世帯(同の52.4%)で前回調査の7,222世帯(同52.1%)から195世帯、0.3ポイント増加した。

単独世帯は3,341世帯(同23.6%)で、そのうち65歳以上の高齢単身者は1,677人(男性366人、女性1,311人)となり、母子父子世帯は219世帯(同1.5%)となっている。

(8) 労働力状態

平成17年10月1日現在の15歳以上人口32,722人の内、就業者は19,161人、完全失業者は771人で、この両者を合わせた労働力人口は19,932人となり、15歳以上人口に占める割合は60.9%となっている。一方、家事や通学などの非労働力人口は12,542人で、15歳以上人口に占める割合は38.3%となった。

前回調査と比べると、労働力人口は956人(4.6%)減少し、非労働力人口は5人(0.03%)増加している。

労働力人口を男女別にみると男性が11,398人、女性が8,534人で、構成比は、男性57.2%、女性42.8%となった。

(9) 産業別就業者

15歳以上就業者を産業3部門別にみると、第1次産業就業者は2,319人で12.1%、第2次産業就業者は6,516人で34.0%、第3次産業就業者は10,023人で52.3%となっており、前回調査と比較すると、第1次産業就業者は299人(11.4%)、第2次産業就業者は1,089人(14.3%)の減少、第3次産業就業者は119人(1.2%)増加した。

(10) 昼間人口

常住人口(夜間人口)37,640人のうち通勤、通学により他市町

村に流出している人口は4,717人で他市町村から流入している人口は5,785人で差し引き1,068人の流入超過となった。

そのうち、通勤による流入人口は5,527人、流出人口は4,161人である。

4 綾部市の人口の推移

	人口総数			増減		面積 k㎡	人口密度 (1k㎡当たり) 人	D I D人口 人	D I D面積 k㎡
	総数	男	女	実数	率				
大正	人	人	人	人	%	k㎡	人	人	k㎡
14年	47,298	22,097	25,201	—	—	348.49	135.7	—	—
昭和5年	48,206	22,401	25,805	908	1.92	348.49	138.3	—	—
10年	46,567	21,574	24,993	△ 1,639	△ 3.40	348.49	133.6	—	—
15年	45,388	21,158	24,230	△ 1,179	△ 2.53	348.49	130.2	—	—
22年	54,005	25,352	28,653	8,617	18.99	348.49	155.0	—	—
25年	54,055	25,804	28,251	50	0.09	348.49	155.1	—	—
30年	53,235	25,555	27,680	△ 820	△ 1.52	348.49	152.8	—	—
35年	51,258	24,149	27,109	△ 1,977	△ 3.71	348.49	147.1	11,108	1.1
40年	48,339	22,238	26,101	△ 2,919	△ 5.69	348.49	138.7	12,726	1.7
45年	44,983	20,751	24,232	△ 3,356	△ 6.94	348.49	129.1	12,484	2.3
50年	43,490	20,414	23,076	△ 1,493	△ 3.32	348.49	124.8	11,937	2.5
55年	42,552	20,096	22,456	△ 938	△ 2.16	348.49	122.1	12,806	3.0
60年	41,903	19,816	22,087	△ 649	△ 1.53	348.49	120.2	12,228	3.0
平成2年	40,595	19,197	21,398	△ 1,308	△ 3.12	347.11	117.0	11,299	2.7
7年	39,981	19,067	20,914	△ 614	△ 1.51	347.11	115.2	12,867	3.3
12年	38,881	18,548	20,333	△ 1,100	△ 2.75	347.11	112.0	13,303	3.4
17年	37,755	18,031	19,724	△ 1,126	△ 2.90	347.11	108.8	13,439	3.6

注) 昭和25年以前は、市町村合併前により総務省統計局の推計による。

